

# 観光客の「足」にもOK



新たに開発した電動自転車。太陽光発電装置(右端)からも充電できる=御嵩町商工会で

## 御嵩町と連携 名古屋の企業 新タイプ電動自転車開発

御嵩町と相互連携協定を結ぶ名古屋市中村区の「キャリオ技研」(富田茂社長)が新型の電動自転車を開発し十八日、町商工会で発表した。前輪部分が車いすタイプになっている二人乗りで、太陽光発電装置からの充電も可能。町は観光・福祉向けの活用を検討する。(斉藤明彦)

同社は自動車・航空機部品設計などを手掛けるベンチャー企業。電気自動車を開発した実績もある。電動自転車はリチウムイオン電池を使い、家庭用電源からの充電は最速十二分で完了。電力だけで走行すると時速六キロで九十分走れる。ペダルをこぎながらの補助動力だと五十キロ走行できるといふ。車いすのキャストには、油圧器メーカー

### 2人乗り 時速6キロで90分走行

・KYBの緩衝器を取り付けて乗り心地を改善。時間はかかるが太陽光発電装置からの充電も可能で、環境面に配慮した。大型ショッピングセンターのカーポートとしての活用も考えられるという。ハンドル間に付けたiPadで地図表示や現在地を把握でき、町は観光客向けの足としての利用を模索。また市場動向を見ながらKYBが量産化を検討している。電動自転車は二十六年日に中公民館で開催される町環境フェアに出展し、試乗体験を予定している。